

「水」をテーマに 高校生が集い語り合う 熊本の水には物語がある



くまもと
地下水財団
10周年
記念企画

ユース水
フォーラム
くまもとメンバー
座談会

熊本の水文化を世界に発信する高校生をサポートするために、2021年3月に結成された「ユース水フォーラムくまもと(YWFK)」。昨年開催されたYWFK主催の「熊本の水文化ゼミ」第1期には9校・39名の高校生が参加し、最終目標として掲げた「第4回アジア・太平洋水サミット」(2022年4月開催)にて開会宣言を行ったほか、展示ブースにおいて世界に向けて学習成果を発信しました。

持続可能な地下水利用のためには次世代を担う若者たちの力が重要です。そこで、次世代を担う若者たちの活動を支援する取組みを始めたくまもと地下水財団では高校生たちの声を聞くために今回の座談会を開催しました。座談会ではYWFK代表の田中尚人先生がナビゲート役を務め、第1期生の有志が集い、活動を通して感じた熊本の水の魅力、豊かな水を未来へ引き継ぐためにできることについて語り合いました。

【 ユース水フォーラムくまもとメンバー 】

右から2番目
ユース水フォーラムくまもと代表
田中 尚人先生
(熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授)

左から
ユース水フォーラムくまもと第1期メンバー
合志 健さん(熊本商業高等学校3年)
古閑 颯真さん(熊本商業高等学校2年)
片山 紗良さん(熊本北高等学校3年)
梅崎 悠太さん(熊本北高等学校3年)
緒方 望々華さん(尚綱高等学校3年)
森 響来さん(尚綱高等学校3年)

田中 尚人先生(以下:田中) 2022年4月に熊本市で開催された『第4回アジア・太平洋水サミット』で「熊本の水の物語」を世界に向けて発表してもらうために、みんなと一緒に1年間学んできました。最終的に各チーム3分間の動画を作成してもらいましたが、その過程で改めて気づいた「熊本の水、特に地下水の魅力」「大切さ」について聞かせてください。

梅崎 悠太さん(以下:梅崎) 熊本の地下水の魅力といえば、やっぱり水道水が100%地下水で賄われていて、蛇口をひねれば当たり前のようにおいしい水が出てくることだと思います。しかもミネラル分が多い。私は水泳部なのですが、高校のプールも地下水を直に引いているので、泳いでいて「ぜいたくだな〜」と感ずることがあります。

森 響来さん(以下:森) 蛇口をひねれば100%天然のミネラルウォーターが出てくるのは、昔、阿蘇山が噴火してできた地形や、先人たちが取り組んできた様々な利水活動が今につながっているからなんですよ。長い年月をかけて培われてきたこの水環境は世界全体を見ても類がない。そこが素晴らしいと思います。

合志 健さん(以下:合志) そして、先人たちが培ってきた豊かな水を守るために、くまもと地下水財団をはじめ行政、企業、民間、みんなが今も進行形で手を取っている。だから100%地下水が維持できていると思います。

片山 紗良さん(以下:片山) 私は、水は日常生活に欠かせないものだからこそ「日々の当たり前」をたくさん含んでいると思います。水がないとご飯を作れない、お風呂に入れない、洗濯物を洗えない。おいしいだけでなく、とても貴重だし、水について語り合える切り口もたくさんある。



そのことに気づいている人が熊本には多くいて、「水」をテーマに人が集まるくらい愛されている点もすごいと思います。**緒方 望々華さん(以下:緒方)** 確かに。身近なところに目を向けてみると、江津湖や水前寺公園など、水があることで憩いの場になっている空間ってありますよね。そして、そこを維持するためにゴミ拾い活動などを自主的に行う市民がいたり、最近ではキャンプをする人たちもいても楽しそう。豊かなコミュニティも、水が生み出していると感じます。



古閑 颯真さん(以下:古閑) 水に対する親しみやすさって、熊本では幼い時から自然と育まれていますよね。例えば私は、小学生の時から「江津湖博士」という活動をしていて、楽しみながら水について知る機会にたくさん触れてきました。幼い時から染み付いてきたものだから、自然と行動につながると思います。

田中 熊本地震の経験を経て、「それぞれの地域で異なる水文化を世界に発信すること」の重要性を痛感しました。水は世界中どこにでもあります、水文化はそこにしかないものです。阿蘇の水文化は阿蘇にしかないし、江津湖の水文化は江津湖にしかない。皆さんの意見を聞いていて、そのことがしっかり伝わってきて嬉しく思います。

経験が生んだ気づき そこから行動 水保全につなげる

田中 今回の経験をを通して変わったこと、今後の課題だと感じたことはありますか？

森 私は小さい頃から水に親しんできたのでいろんなことを知っているつもりでしたが、『熊本の水文化ゼミ』に参加し、同じく水に興味を持つ他の方たちと意見交換をすることで新たな気づきがありました。



合志 私もです。以前から水に関する興味が高く、田植えや、白川流域かんがい用水群に関するイベントに参加していましたが、今回の活動は今まで以上に深掘りして考える機会になり意識がガラリと変わりました。温泉に行ったり、噴水を見たら「この水はどこから引いているんだろう？」って考えたり、ペットボトルの水も「どこから採取しているんだろう？」って思わずラベルを見たり。身近すぎて今までスルーしていたことを、自分ごととして捉えられるようになりました。

緒方 小学生の頃から「熊本の水はおいしい」と知っていたけど、今回初めてその理由まで考えました。水って「あるのが当たり前」なので、意識して見ようと思わないし、目の前にあるのに見えていないこと



発信の先にある 「伝える」を 未来を担う若者目線で追求

が多いと思うんです。水について「語り合うことで共有できる」。そのことに気づけたから、これからはもっと行動に移していきたいと思います。

田中 私が尊敬する歴史家の故・阿部謹也先生が著書の中で「『わかる』とは、それまで見ていた景色が変わって見えることだ」とおっしゃっていたんですが、聞いた時に「なるほどな」と思いました。皆さんが今回の経験を通して、今までとは違った景色が見えたのなら大きな成果だと思います。



森 水サミットの来場者は比較的意識の高い方が多かったから、ブース展示の説明をしたり、それに関する意見をいただけたことも大きかったですよね。私は天草出身ですので、世界の海洋汚染について現地でも学びたくて文部科学省の『トビタテ！留学JAPAN』にもエントリーをしていました。今回の水文化ゼミで得た知識や考え方は、世界中の仲間とオンラインでつながりディスカッションをする際にとても役に立ちました。この経験が後押しとなり、今後は大学で学んだ後に天草に戻り、海を通して地域を活性化していきたいと思っています。

古閑 私も活動を通して、水と多方面の関わりに対する着眼点を持てましたし、将来に対する考えがより明確になりました。

農業に対するバーチャルウォーター問題とか、水問題を可視化することで農業と商業を組み合わせたビジネスモデルを創出していきたいですね。あとは、水サミットの後にタイの方と話す機会があったんですが、「熊本在住」って伝えたら「水サミットがあった場所だね」と言われたんです。水を通して世界中が熊本を知るきっかけになったら嬉しいです。

梅崎 私たち熊本北高等学校チームは第1期生を代表して水サミットで始まりの宣言をさせていただきました。練習する前は「ちゃんと言わない」というプレッシャーが大きかったんですが、本番が近づくと「自分たちの宣言を皮切りにサミットがスタートし、世界中の人たちと交流することを待っている人がある。水を通して世界中がつながるんだ」という気持ちがどんどん湧き上がってきました。そして言葉に力がこもりました。



片山 私は最初から「水サミットで宣言する」という意気込みを持って参加したわけではなかったのですが、最初は不安の方が大きかったです。でも任せてもらったことで少しずつ意識が変わり、とても貴重な体験をすることができました。

田中 新型コロナウイルス感染症の流行により、去年1年間ではできなかったこと、そこから見えた未来への思いを聞かせてください。

緒方 活動の様子をSNSを通じて同世代に発信しようと思っていましたが、新型コロナウイルスの流行でフィールドワークが中止になってしまい、思うようにできなかったことは残念でした。

梅崎 私も、1年間は思いの外短かったですし、活動が制限されたのは少し残念でした。でも、活動を通していろんな方と接して、自分が持っている知識を更新していく作業がとても楽しかったです。また、自分が主体的に行動し動画を作成することで、「直に会えなくても共有できる」と気づけたので次につながると思います。

田中 確かに。「学びを止めない」ということはとても大切だと思いますし、みなさんからの意見を踏まえて、2期生は感染症対策をしながらもフィールドワークを行います。あと、緒方さんが言っていたように「若い世代に響く発信方法」を、2期生として引き続き活動してくれる古閑さんと一緒に模索中です。SNSですから安全性を確保しつつ、個々の個性を發揮してもらえそうな発信ツール。楽しみにしています。

片山 発信方法の一つである動画に関して課題に感じたことは、「出ていたよね」「すごいね」とは言われたけど、動画の内容に関する感想や質問がなかったことです。動画を作った目的は「発信して、伝えて、意識を変える」ことだと思うんですけど、伝える以降が足りなかった。その力をさらに上げていく必要があると痛感しました。

合志 片山さんが言ったように、私も1期の活動を通して「発信を楽しんで見てもらうためには、まずは水に関する興味を持ってもらわないといけない」と感じました。自分たちの発表を聞いてくださったのは、ほとんどが専門家の方でした。それは、興味が無いものは見ない人が多いからだと思います。今後は「発表の前にどうやって水に興味を持ってもらえるか？」を少し掘り下げて考えていきたいですね。まずは自分ができることから行動して、関わる周りの人たちの意識を少しずつ変えていきたいです。



森 私たちの高校では、制作した動画を全校生徒に見てもらい、プレゼンする機会を設けてくれました。その結果、今まで興味がなかった人たちも「私たちにもできるんだ」「私たちも挑戦してみようか」と、水問題を身近なことに感じて行動するきっかけになってくれたんじゃないかと思っています。

古閑 私は2期も引き続き活動しますが、1期は膨大な知識を入手したのに、うまくアウトプットできなかった後悔が残っています。「みんなに発信する」と思うと構えてしまった部分があるので、2期は小さくても1歩を踏み出していきたいと思っています。



100年後の 豊かな水を守るのは 一人ひとりの小さな行動

田中 最後に、これからどんな未来を描いていきたいか、それぞれの思いを聞かせてください。

梅崎 例えば100年後、地球温暖化がどんどん進むと今は地球環境がガラリと変わっていると思います。それでも人は適応能力があるから生きていけるけど、世界各地で干ばつや水不足が深刻化すると、水をめぐって紛争が起きてしまうかもしれない。水を奪い合うのではなく、水を通して人を助け合う世界になるために、今できることに目を向けていきたいです。

片山 確かに、水で悲しい思いをする未来にはなってほしくないですね。私たちの暮らしに欠かせないものだからこそ、豊かなまま未来へ引き継ぎたい。そのために大々的な何かをするのではなく、みんなが自分のできることを意識して日々コツコツと積み上げていくことが大切だと思います。「塵も積もれば山となる」ですから。

森 あとは、今の豊かさをキープし続けるためには、未来を担う若い世代に「水の大切さ」「魅力」をずっと伝承し続けることが鍵になると思います。そのためには「伝える場」「参加できる場」が必要不可欠。まずは私からその場を創出できるように、動いていきたいと思っています。

緒方 時代が進むにつれ技術がどんどん発達し便利な世の中になりますが、その一方で自然を壊すこともあります。技術進歩に伴う自然破壊に負けないように、人の手で自然を守る活動をする必要があると思います。植林、田植え、湛水事業。雨が降って土にしみ込み、長い時を経て湧き出し、私たちの生活を支えてくれるという、自然の営みを守っていききたいですね。

合志 私たちは水がないと生きていけませんから、水があるところに人が集まります。最近では、製造過程で大量の水が必要となる半導体企業の誘致にも成功し、熊本の経済活性化への期待が高まっています。でも、豊かな水にあぐらをかいていたら、痛い目に合うと思います。同時進行で使った分だけ増やす活動も、これからは必要でしょうね。

古閑 私は子どもの頃から「熊本=水が豊か」と認識してきました。それは親や学校が何気ない日常の中で教えてくれたからだと思います。同じように、街なかには水のオブジェを創って置いたり、水をもっと身近に感じられる街づくりに舵を切るのもいいと思います。そして街なかの水の維持活動を通して、熊本ならではの水の魅力を感じていたら、自然と意識が高まる。一人ひとりが興味を持ち、行動を起こすことが、豊かな地下水を未来へ引き継ぐことにつながると思います。

